

講演

「アンチ・ドーピング」

～健康とフェアプレーを守るために～



財団法人 日本陸上競技連盟 医事委員 野田晴彦 医師

<略歴>

1957年3月8日兵庫県生まれ。

東京大学医学部卒業。

財) 日本陸上競技連盟医事委員。

86年ソウル・アジア大会、91年シェフィールド・ユニバーシアード大会等のJOC本部ドクター。

陸上競技では、97年プサン・東アジア大会、2001年ブルネイ・アジアジュニア選手権、01年エドモントン世界選手権、02年ジャマイカ・世界ジュニア選手権、03年シアーズブルク・世界ユース選手権のチームドクター。

専門は、公衆衛生とスポーツ医学(内科)。

健康志向から競技者まで、健康管理からトレーニング、ドーピングコントロールまでの幅広いメディカルサポートを目指している。

アンチ・ドーピング …… 健康とフェアプレーを守るために ……

2005年2月26日

日本陸上競技連盟 医事委員 野田晴彦

1. アンチ・ドーピングの歴史

(1) IOC (国際オリンピック委員会)

オリンピック大会のドーピング汚染

蛋白同化剤の乱用、興奮剤による死亡事故 … 1964年スポーツ会議でアンチ・ドーピング決議

ドーピング検査の実施 : 1968年グルノーブル、メキシコ大会より

金メダルを巡る … ミュンヘンオリンピック (水泳: エフェドリン)

主な事件 長野オリンピック (スキー/スノーボード: 大麻) 剥奪せず

シドニーオリンピック (体操: プソイドエフェドリン)

ソルトレークシティオリンピック (スキー: エリスロポエチン)

(2) IAAF (国際陸上競技連盟) / JAAF (日本陸上競技連盟)

日本での競技会検査 : 1980年8カ国陸上より

競技外検査 : 1993年9月30日より

(3) WADA (世界アンチ・ドーピング機構) / JADA (日本アンチ・ドーピング機構)

WADA: 1999年設立 シドニーオリンピックより活動

2004年世界アンチ・ドーピング規程 : アテネオリンピック参加に義務付け

JADA: 2001年設立 日本国内の統括、調整機関

ドーピングコントロールオフィサー (DCO) の養成

(4) スポーツ仲裁機構 (ICAS 1996年 / JSAA 2003年)

問題の迅速な解決を図る … アトランタオリンピックより参加に義務付け

2. ドーピングを巡る社会の動き

(1) スポーツと薬物乱用

競技力の向上目的 : 一時的 … 興奮剤、麻薬性鎮痛剤、利尿剤、隠蔽剤、など

身体改造 (トレーニング期間) … 蛋白同化剤、ホルモン類、など

ドーピングの定義 … その物質または方法が、以下の3条件のうち2つ以上を満たすと

①競技能力が強化される、その可能性がある

き

- ②健康上の危険がある、その可能性がある
- ③スポーツ精神に反すると認められる

禁止物質・禁止方法の使用が隠蔽される可能性がある

(2) 社会と薬物乱用

非合法、脱法薬物 … 麻薬、大麻、覚醒剤、向精神薬、など：法的規制
依存性の強い物質 … タバコ、エチルアルコール、など
乱用されやすい薬物 … 総合感冒薬、蛋白同化剤、など
規制するルールがなければ、必ずエスカレートして深刻な問題を引き起こす

(3) クリーンな社会とスポーツを目指して

クリーンであることは、スポーツの存在意義に関わる
スポーツは、クリーンなメッセージを社会に送ることが出来る
「健全な身体」は「健全な精神」が宿ってこそ守られる
アンチ・ドーピング活動とドーピング検査は、スポーツにクリーンな土台を提供する

3. ドーピング検査の実際

(1) 競技会におけるドーピング検査（競技会検査）

ドーピング検査を行う競技会は、クリーンな競技会である資格を持つ
競技会のステイタスを決めると考える … トップ競技者では受けなければ恥ずかしい
競技運営の一部として組み込むことが望ましい
F1レースのように主催者（FIA）が予告なく実施することもある

検査は尿検査（75ml）、採尿・密封して検査機関（三菱化学 BCL）に冷蔵で送付
検査作業は、すり替えなどの不正操作が入り込まないように、セキュリティを確認する
本人の尿であることを、同性のオフィサーがトイレに入って直接見て確認する
検体操作は原則として本人が行い、競技者の同伴者は手順を確認する
結果の通知方法は検査実施組織によって異なるが、異常所見があれば文書で通知される

(2) トレーニング期間のドーピング検査（競技外検査）

これからのドーピング検査では、比重が重くなる
主にトップクラスの競技者を対象にする … 効率の問題、居所情報の管理など
本当はどのレベルであっても、ドーピングのリスクは大きな差がない

(3) ドーピングコントロールオフィサー

日本国内の資格 … JADA養成 DCMO・DCTO が原則的に実施する
各競技団体に、約 280 人（2004 年 3 月）

(4) アンチ・ドーピングの理念

スポーツ選手の健康と安全を守る

ドーピング検査によってしか、競技者がクリーンであることを証明できない

第三者から見て不正の疑いのない、国際標準のドーピング検査を行う

4. 身近なアンチ・ドーピング活動のために

(1) ドーピングのリスク（誘惑）は多い … 今までの違反例はさまざま

好奇心から : 非合法薬物、興奮剤

向上心から : トレーニング理論、蛋白同化剤、ホルモン類、

勧められて : ジム、指導者、仲間、親族

うっかり : 総合感冒薬、健康食品

知らずに : 指導者から、組織的に、強制的に

(2) 安易な薬物の服用は、うっかりドーピング違反の温床

口に入るものの区別 … 成分表示

食品・飲料・健康食品・特定保健食品・医薬部外品・医薬品

薬剤の使用はドーピングの判断して行い、記録を正確に所持しておく

(3) 即効性を求める心理は、弱さの象徴

効果が実感できるということは、薬理作用があるということ

短期間で「薬」より効く食品があることはおかしい

即効性を演出するのは、カフェインなどの興奮剤

サプリメントは規制が甘い分だけ、禁止物質の汚染や意図的混入の危険がある

長期的なトレーニングに、目標、見通し、自信を持つこと

(4) Play Fair, Play True

「違反競技者と同じ競技場に立ちたくない」プライドを持つ